

=====  
一般社団法人日本アセットマネジメント協会  
J A A Mメールマガジン (2023年度第13号)  
2024.1.23発行  
=====

2024年1月1日(月)16時10分、最大震度7の令和6年能登半島地震が発生しました。発災直後、能登町の関係者に電話連絡を試みましたが不通でしたので、金沢市在住のJAAM会員との間で、現場状況の把握に努めました。1月2日早朝に能登町の役場職員と連絡がつき、窮状を把握するとともに、1月3日早朝には能登町長よりJAAMへ協定に基づく協力要請のメールが配信されました。1月4日の能登空港の開港にあわせて先遣隊として現地入りの準備をしましたが、その後1月24日まで空港閉鎖の報を受け、1月6日から金沢に入り、翌早朝に、第1班を担っていただいた株式会社オリエンタルコンサルタンツの猪爪様、植田様、永井様、金沢在住のJAAM会員の細沼様とともに現地に向かいました。能登町役場で現地調査等の進め方を調整するとともに、今後の協力体制を整えるために宿泊場所、移動車両等の確保などに努めました。

今回のメールマガジンでは、被災地域でのインフラ調査、状況に応じた対応支援などについて、第1班の株式会社オリエンタルコンサルタンツから引き継いだ八千代エンジニアリング株式会社の事業統括本部社会マネジメント事業室課長 中島道浩様から報告をいただきます。なお、八千代エンジニアリング株式会社は1月13日(土)に3名体制で金沢に入り、1月14日～17日の間現地での様々な対応をしていただきました。

八千代エンジニアリング株式会社 事業統括本部社会マネジメント事業室課長 中島道浩

被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、復興に尽力されている皆様には安全に留意されご活躍されることをお祈りいたします。

オリエンタルコンサルタンツ様より、1月14日から第2班として現地調査を引継ぎさせていただきました。先発隊、第1班では、まずは町の主要路線を中心に被災状況の記録を実施していましたが、当社はその他町道の被災状況の把握を中心に、土砂ダム等の危険個所の継続監視、町職員の意向にそった調査活動を実施しました。今回の調査における記録は引き続きSOCOCAに記録しており、新規の記録の他、これまで記録されていた箇所の継続情報の記入などを実施し、町職員との情報共有に努めました。

道路規格とは関係なく、被災状況は甚大でした。海側は津波による被災、液状化による沈下(マンホールの突出)、山側は沢部の盛土崩壊・路肩崩れ、斜面崩壊と本復旧には時間のかかる被災状況でした。高齢者施設へのアプローチ道路では、大規模な斜面崩壊により孤立している箇所もありました。また、当社の担当期間が降雪となったため、被災した路面状況がわからない中での状況把握となり、足で雪を踏みならしながらの確認は困難を極めました。また、調査箇所には集落へ向かう道がすべて被災した場所もあり、わずか2m程度のみ啓開された箇所を通らないと到達できない場所もありました。

通行止め箇所なども、日々の仮復旧で変わり、また余震や天候により道路状況も変わる。町の職員は、自らも被災者でありかつ、町民の被災者支援(避難所の支援)も実施しなくてはならない状況の中で、インフラすべての情報を各支援者に共有していくことは困難を極めます。このような災害の際には、情報を幅広く共有することが本当に大事なと再認識しました。我々もこのようなツールを保有していますので、災害の際に幅広く活用できるようにしていきたいと考えております。

まだ、復興には程遠い状況ではありますが、JAAM会員の皆様と協力してできることを考えていきたいと思っております。

余談ではありますが、自らも被災者の中、セミナーハウスを開けてくださり、ご飯を炊いていただいた管理人の方には感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。